

2003年(平成15年)12月10日 水曜日 (2)

日本海に遊ぶ

京都大学水産実験所職員
上野 正博

隻、4、5年後には年
間1万隻を超えるだろ
うといわれています。こ
れの処分が大問題にな
っています。

漁船を管轄する水産
庁は、漁船の増加に伴
って、漁船の管理が
難しくなるとしています。
でも、コストが、

また木造船に戻せば、
架したとき、船底をハ
ンマーで叩いて回ると、
いいと思われるかも知
れませんが、でも、木
めたことも、

造船の手入れて大変 この春オープンした
 なんです。実験所の 同志社大学「竹の高度
 先代緑洋丸は木船。20 利用研究センター」で

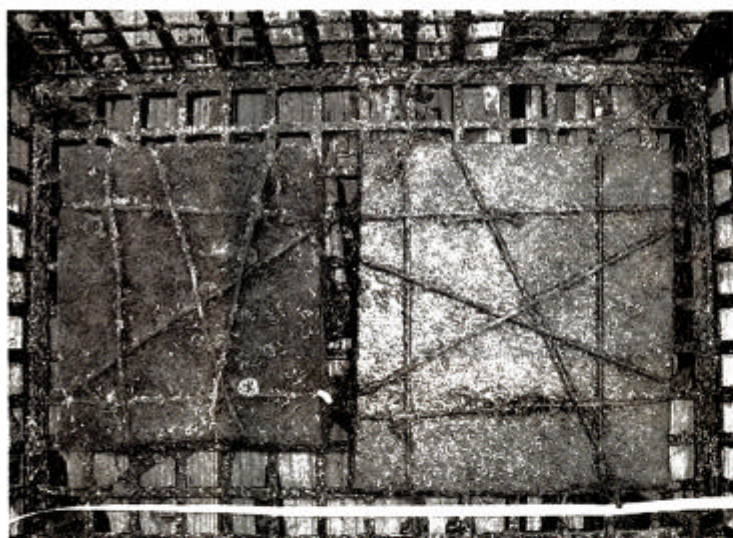
年余り乗りましたが、は、竹の繊維で強化したFRPの開発が進められていきます。将来的には間伐材を原料にするウッドプラスチック

を、竹繊維で強化したFRPが実用化されそうです。

里山の保全に欠かせない間伐と孟宗竹の駆除も、現在は間伐材と竹の処分が大変でなかなか進みません。竹強化FRPが実用化されれば、間伐材も竹も貴重な資源に早変わり。おまけに細かくして土に戻してしまえるので廃棄物問題も解決。一石二鳥って次第。

F R Pは繊維強化プラスチックの略。ガラス繊維で強化したグラスファイバーや炭素繊維で強化したカーボンファイバーは、釣り竿やスキー、スノーボード、車の内装材などでおなじみですね。F R P製の船は軽くて丈夫、な上に長持ちするので、昭和40年代から大量に作られてきました。今、港に浮かぶ小舟はほとんどがF R P製です。10年くらい前から初期に作られたF R P船が廃船になり始めました。その数は年間数千

疋は、15年くらい前からいろんな処分方法を検討してきました。とはけつこう大きいので、処分しやすいように切断すると大量のガラスの粉が発生。作業員が重症の塵肺にかかる危険性が大きいと切断は中止。燃やそうとすると大量の有毒ガスと猛烈な熱が発生するのでこれもダメ。結局、ブルドーザーで踏みつぶして小さくして埋めるしかないってことに。最近では高圧の水を使つてガラスの粉が飛



実験所で海中耐久試験中のウッドプラスチック